

# 令和6年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【大宮八幡中学校】

⑥	次年度への課題と授業改善策
知識・技能	教科によって差はあるものの、市の平均点前後の結果が出たことから、基礎的・基本的な知識・技能の定着はある程度見られた。しかし、教科によって、差が出ていることも考え、必要に応じて、IT授業やICTの活用等、個に応じて必要な支援を検討する必要がある。また、教科横断的に学習する視点も教師側がもち、生徒の基礎学力の向上を目指していく。
思考・判断・表現	「知識・技能」と「思考・判断・表現」の差が大きいため、「話し合い活動」をより多く行い、主体的・対話的で深い学びの実践を目指し、自分の考えをアウトプットする活動を多く取り入れていく。また、教科横断的に学習を進めていくために、本校独自で定めた基準を生かして、生徒に教科横断的に学ぶことを浸透させていく。

①	今年度の課題と授業改善策	
	学習上・指導上の課題	授業改善策【評価方法】
知識・技能	<p>&lt;学習上の課題&gt; 知識・技能の習得状況の個人差が激しい。また、教科によっての定着度や、学習への意欲の差が大きい。</p> <p>&lt;指導上の課題&gt; 授業では、支援を要する生徒が多い。家庭学習を習慣化させることが課題。</p>	⇒ 授業の中で、小テストや「ドリルパーク」、「スタディサプリ」を効果的に活用し、基礎的・基本的な学力の定着を目指して取り組む時間設定をする。【単元ごとに実施】 朝読書の時間を活用し、教科担当が設定した「スタディサプリ」に取り組む時間を設定し、自分で単元を選択して学習に取り組めるように設定する。【週に1回】
思考・判断・表現	<p>&lt;学習上の課題&gt; 基礎的・基本的な知識・技能の習得状況に対して、思考・判断・表現の正答率が低い。</p> <p>&lt;指導上の課題&gt; 子ども主体の学びとなるような時間が教科によって差が生まれている。</p>	⇒ 話し合いや発表活動を行うだけでなく、適切な見取りを行えるように、研修を通して、教科横断的な評価方法の共有を行っていく。【単元ごとに実施】 授業の形を、生徒主体の授業スタイルに変換していき、学びの質の高い授業を実践していく。【R6年度さいたま市学習状況調査「各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていたか」の質問項目において、肯定的な回答の割合が90%以上】

⑤	評価(※)	授業改善策の達成状況
知識・技能	B	週に1回程度朝読書の時間を活用してスタディサプリを実施することはできなかったが、単元ごとや長期休業中の課題として実施できた教科も複数あった。また、小テストも、教科ごとにFormsやプリントを活用して、定期的に「知識・技能」を確認する時間を作ることができた。
思考・判断・表現	B	研修主任を中心に、教科横断的に見取る学校独自の基準を設定し、試験的に評価として生徒へフィードバックすることができた。引き続き、教科横断的に学習を進められるように準備をしていく。

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(概ね達成) C 6割未満(あと一歩)

②	全国学力・学習状況調査結果について(分析・考察)
知識・技能	国語では、文中の情報を正しく読み取る問題の正答率は、高い正答率が見られた。一方で、説明文から読み取る問題や、話し合いについての説明から適切な選択肢を選ぶといった少し複雑な問題に関しては、正答率が低くなる傾向が見られた。数学では、関数や加法等の問題は高い正答率見られた。一方で、データや図形を読みとる力に課題が見られる。
思考・判断・表現	「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気づいたりすることができていますか」という質問に対して、94%以上の肯定的な回答が見られた。しかし、国語・数学ともに思考・判断・表現の観点に該当する問題の無解答率は、県、全国と比べると高い事が結果として表れた。話し合い活動を今後も多くの場面で取り入れていくながら、説明する機会や「なぜそうなるのか」と考える活動を重視していきたい。

①結果分析(管理職・学年主任等)

②詳細分析(学年・教科担当)

④	さいたま市学習状況調査結果について(分析・考察)
知識・技能	数学の知識の項目について、良い結果が見られた。本校で拡充の時間に実践している「数学デー」の結果が現れたものと考えられる。特に、2年生においては、昨年度の結果よりもほとんどの区分で正答率を上回る結果が見られた。数学科のみならず、T2・SAを配置し、きめ細かな基礎学力の定着を図った結果が現れた。また、スタディサプリの活用を行った教科は、「知識・技能」の部分において、市平均に近い結果が見られた。
思考・判断・表現	「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気づいたりすることができていますか」の質問項目に対して、肯定的な回答が多く見られた。一方で、「思考・判断・表現」の項目で上回った教科が少ないといった課題も見られた。そのため、話し合い活動を主体的・対話的で深い学びにつなげていく必要がある。また、市の結果と比べると、無解答の割合が高い教科が多いため、身に付けた「知識・技能」を表現するという活動を増やす必要がある。

③	中間期報告	中間期見直し	
	評価(※)	授業改善策の達成状況	授業改善策【評価方法】
知識・技能	B	月に2回程度、朝読書の時間を活用し、日ごとに教科を変え、スタディサプリに取り組む時間を取ることができた。 小テストは教科ごとに実践しているので、今後も継続して行ってもらおう。	行事との兼ね合いを見ながら、週に1回行えるように朝読書以外の時間も活用してもらえようように、教科で工夫してもらおう。
思考・判断・表現	B	研修主任を中心に、適切な見取りができるように学校独自の評価項目を設定し、教科横断的に共有できる環境を整えた。 教科によっては難しい単元もあるが、生徒が課題を考え、グループで協力する活動を実践できた教科も多く見られた。	変更なし

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(概ね達成) C 6割未満(あと一歩)